

# まちのブランディングに資する公園のリ・デザイン

## ～ 芦屋市 宮塚公園 ～

【公園種別】 街区公園  
 【公園面積】 2,294㎡ (うちリニューアル対象は約800㎡)  
 【リニューアル】 2018年3月

- 本プロジェクトは、兵庫県芦屋市宮塚町において、中心市街地再生政策の一環として街区公園のリニューアルを都市のブランド化の中に位置づけ、地域目線に立った使い心地のよい公園のリ・デザインと、公園と地域住民とのかかわりを多様化し結びつきを強めていくコミュニティ・マネジメントの両方の視点から取り組んだものである。
- 閉鎖的であった公園をまちに開き、際の空間に多様な利活用空間を組み込んだリニューアルを経て、現在、まちと公園が一体となった緑の環境の中で人々が思い思いに過ごす、まちの良好な暮らしのイメージをリードするような公園風景が生まれている。
- リニューアル検討を機に芦屋市が2016年度に設置した2自治会を中心とした意見交換会は、地域主体のプラットフォームへと発展し、公園での過ごし方やまちでの住まい方を創造していくような、「まちのブランドマネジメント」を担う主体が芽ばえつつある。

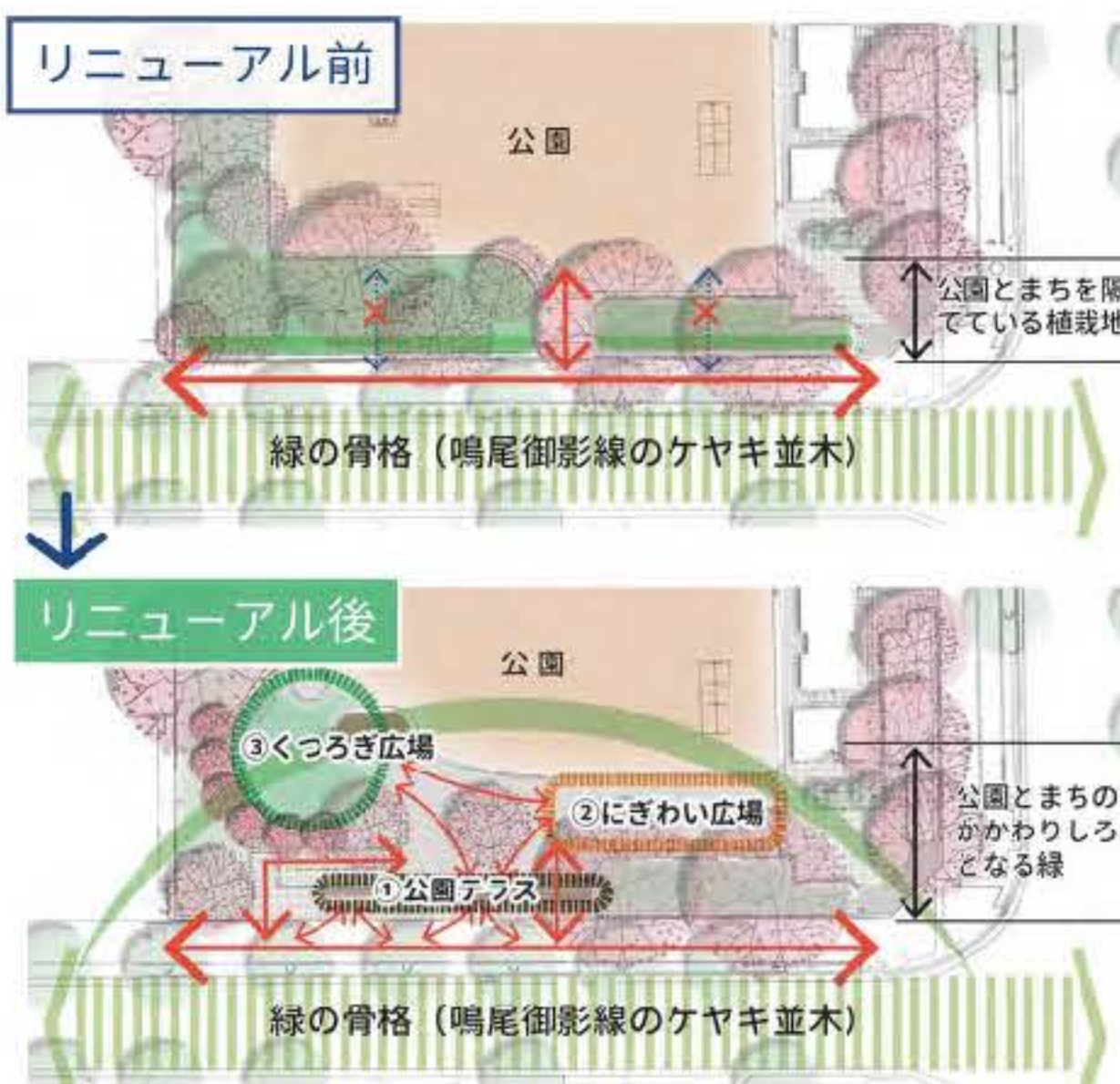
### ブランディングソースとしての公園



- 宮塚公園は、JR芦屋駅と阪神電鉄芦屋駅の間の、市中央エリアに位置する。
- 近年、並木の美しい通り沿いにカフェ・レストランや雑貨店などの洗練された店舗が集積しつつあるお洒落なエリアであり、旧宮塚町住宅などの文化資源も点在することから、芦屋市としても更なる賑わいなどの新たな価値創出を図るブランディングエリアとして位置づけている。
- 私たちは、この都市政策を前提としながら、街路の並木空間や街区公園などの緑資源に着目し、これらを都市のブランディングソースとして位置づけた。

### かかわりしるのデザイン

- 石積と低木に囲まれ閉鎖的な印象を与えていた公園とまちの境界部をオープンにしてケヤキ並木の美しい街路空間と融合させた。
- まちと融合した公園の「際」空間に、アクティビティを誘発させるための空間・装置を組み込んだ。最小限の整備で市民の「かかわりしろ」を増やすことがテーマであった。



左) 低木が見通しを遮る。子どもを遊ばせるのも不安との声も。  
 右) まちと公園が一体となり、周辺店舗との関係も生まれた。

### 公園がまちを変える

- 周辺の店舗や文化活動を公園へ誘いこむことに成功し、新たな公園風景が誕生。日々の暮らしにも公園が溶け込んできた。
- 街区公園の小さなリニューアルをきっかけにしたプロジェクトが、シティプロモーションの根幹をなすまちの変化を誘発し、内なるブランドが育まれつつある。



## 芦屋市のリーディングプロジェクト

- 芦屋市では、まちの魅力や価値を高めることにつながる都市公園整備利用のあり方についての検討も進めている。
- 本プロジェクトも、公園の価値を最大限に高め、地域毎の特性にあわせた公園づくりの可能性を探る、「地域力」の向上を目指したモデルプロジェクトの1つであった。
- エリアとして公園を考えるため、公園が位置する宮塚町、隣接する茶屋之町の2自治会へ呼びかけ、プロジェクト推進の要となる「意見交換会」を立ち上げた。

## コミュニティ・マネジメント

- 地域拠点として使いやすい公園像を考える意見交換を、公園を豊かに使っていくためのプラットフォーム設立に繋げるというロードマップを描き、会の運営を行った。
- 多様な目線からのアイデアは、一度すべてテーブルに乗せ、今回実現するもの、長期的に考え取り組んでいくものなどを整理し、地域と市で一緒に考える継続的なまちづくりへと話を繋げる工夫をした。
- 各プロセスにおいて専門家を招いたり、子育て・福祉など関係各課からの意見も受けながら柔軟に運営し、1つのプランで合意形成することができた。
- リニューアルイベントを機に新たなプレイヤーが誘発され、公園で融合。ひとつの成功体験の共有から、公園と地域を考えるプラットフォームの芽ばえを導いた。

2017.02.10  
宮塚公園と地域会館を一緒に考えていくという、今回のリニューアルと意見交換会の目標を共有。

2017.03.25  
アイデアもたくさん、課題もたくさん。一度に変えるのではなく、地域と共に育み続ける公園を目指すという考え方を共有。

2017.09.06  
「明るく安心」「親子で遊べる」「カフェのような」「コミュニティーの場」。利活用のイメージもふくらませて…

2017.12.22  
イメージしてきた「使い方」はどうしたら実現するのか、意見交換。オープニングイベントで試行的に取り組むことに。

2018.03.08  
話し合ってきたこと、イベントの趣旨を再確認。企画が進むに連れて、仲間も増えてきた!

2018.04.07  
リニューアルイベント「共感・共有」

2018.05.16  
イベントを振り返り、まちを、暮らしを、よりよくしていく自治会の枠を超えたプラットフォームの必要性を確認。

宮塚町自治会、茶屋之町自治会による、「宮塚公園活性化実行委員会」が誕生!

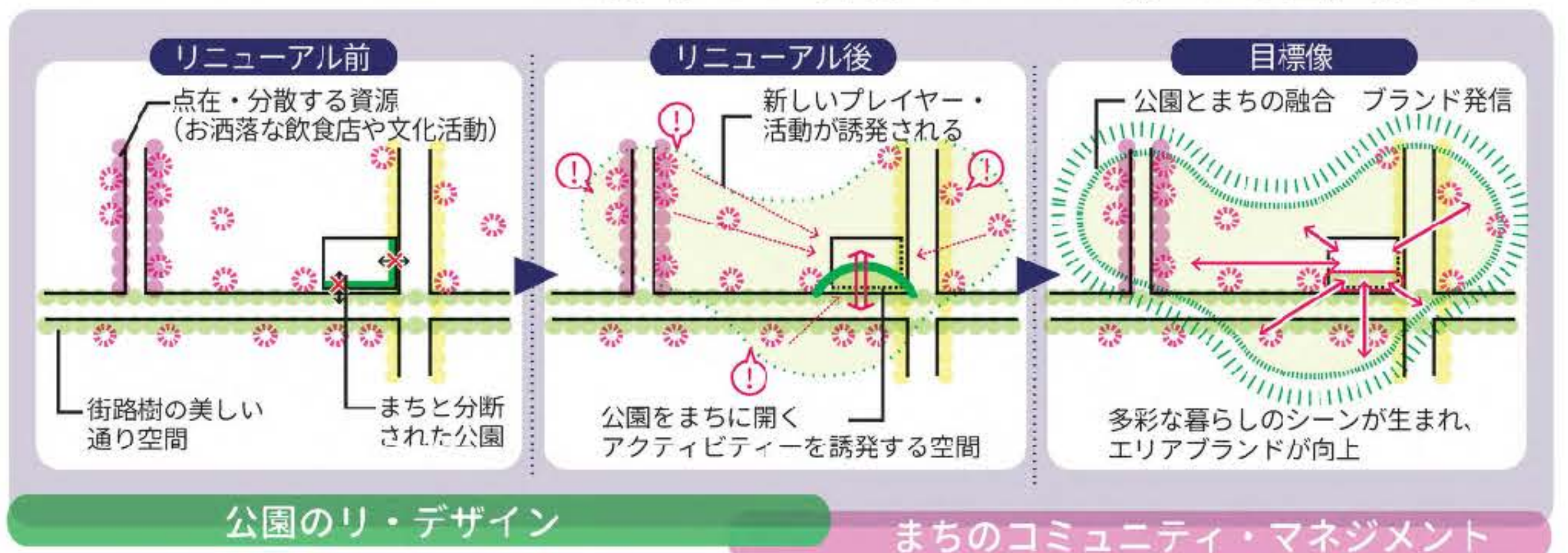
継続的に、公園とまちの暮らしを考えていくプラットフォームが生まれつつある



左) 多様な目線の活用アイデアを出し合う過程で、地域に対する思いも共有。  
右) リニューアルイベントの反省会。合唱団のスタジオを会場に和気藹々と語り合った。



生活者目線で考えた公園の使い方は「コンセプト帖」として地域全体へ発信した。



公園のリ・デザイン

まちのコミュニティ・マネジメント



まちを向いて座り談笑する小学生。笑顔がまちを彩る。



向かいの店舗で買ったスイーツを公園で食べる。まちとの関係が生まれた。



公園の樹木越しに見える、通りの向かいにある店舗のにぎわい。



リニューアルイベントでは、周辺店舗によるマルシェのにぎわいがまちへしみ出した。



近くにスタジオを構える合唱団による圧巻のステージ。「公園ミュージカル」の誕生。



公園へと繋がる鳴尾御影線のケヤキ並木。

## 都市のブランディングに資する、まちのような公園・公園のようなまち



放課後に、宿題を持って集まる小学生。宿題が終わると、舗装広場でスケート。自分たちの居場所としての使いこなし。



平日の昼下がりには散歩や読書など、ゆっくり過ごす人の姿。



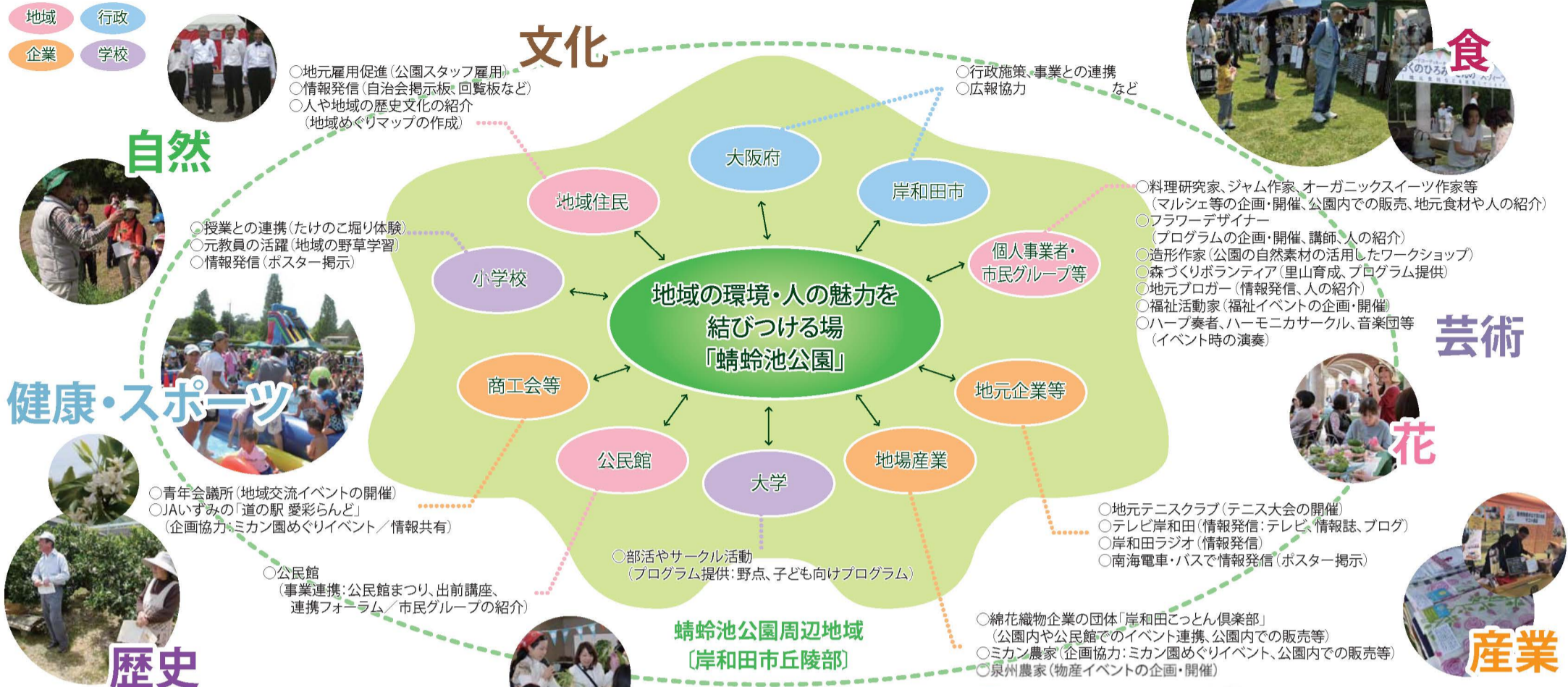
輪になって座るベンチ。お花見やピクニックに人気。



休日の夕方は親子団楽の時間。既存のサクラが陰を落とす砂場では小さい子ども安心して遊ぶ。

# パークマネジメントの波及効果による地域活性化

大阪府宮蜻蛉池公園指定管理業務（平成21～29年度）



当プロジェクトでは、地域住民との交流や地域特有の生活スタイルの体験を通じて、公園と周辺地域の魅力を一体的に楽しむ『公園レクリエーション地域』の形成を目指したパークマネジメントに取り組んだ。蜻蛉池公園の指定管理業務において、地域の個性（歴史、文化、産業、地域課題）を公園の魅力に変え、地域と一体となった公園の特色づくりに取り組むことで、地域活性化を推進するパークマネジメントを実施した。

## 1. ビジョンを共有する ～岸和田山手のイメージづくりを目指す～

地域と一体となったパークマネジメントビジョンとして、「岸和田山手」を掲げ、蜻蛉池公園周辺の住民、農家、商工観光施設、企業、地域活性化や地域交流を活動のベースに持っている個人事業者やボランティアと共有していった。共有の方法としては、初回対面時やプロジェクトの企画段階での説明、紹介者を集めた説明会の開催、年2回開催する蜻蛉池公園管理運営協議会を活用した。

〔岸和田山手のイメージ〕



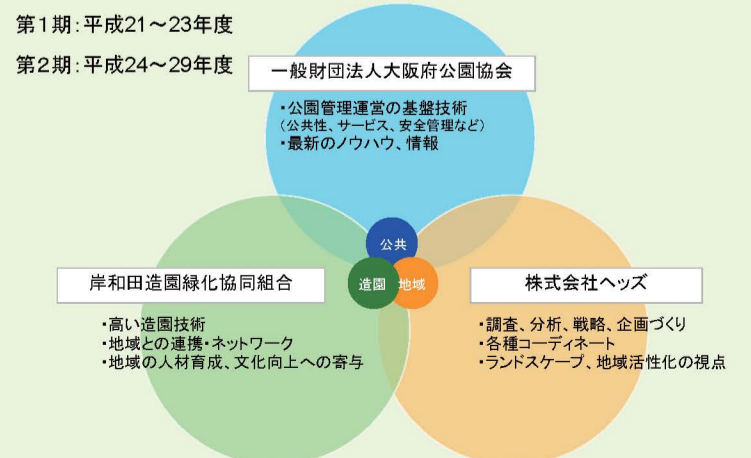
〔蜻蛉池公園の位置〕



## 2. やってみる ～岸和田山手の魅力を利用者に体感させる取り組み～

蜻蛉池公園と周辺地域の独自の価値として目指している「岸和田山手」の魅力を提供し体感してもらう取り組みとして、「ローズフェア」、「とんぼマルシェ」、「とんぼいけフォーラム」などを、地域住民、料理研究家、ミカン農家、公民館等と共に考え、実施していった。このような機会を通じて、「公園利用者」と「地域」のつながりをつくることによって、利用者が、蜻蛉池公園や周辺地域のことを、「身近な存在」「普段の暮らしの中に無くてはならない存在」、広域からの訪れる利用者が「まるで自分が住民のよう」と当事者意識を持ってもらうことがねらいであった。

〔指定管理者「蜻蛉池公園P&Mグループの構成」〕



## 3. 成果・価値を発信し共感を呼ぶ ～岸和田山手の価値の発信・共感～

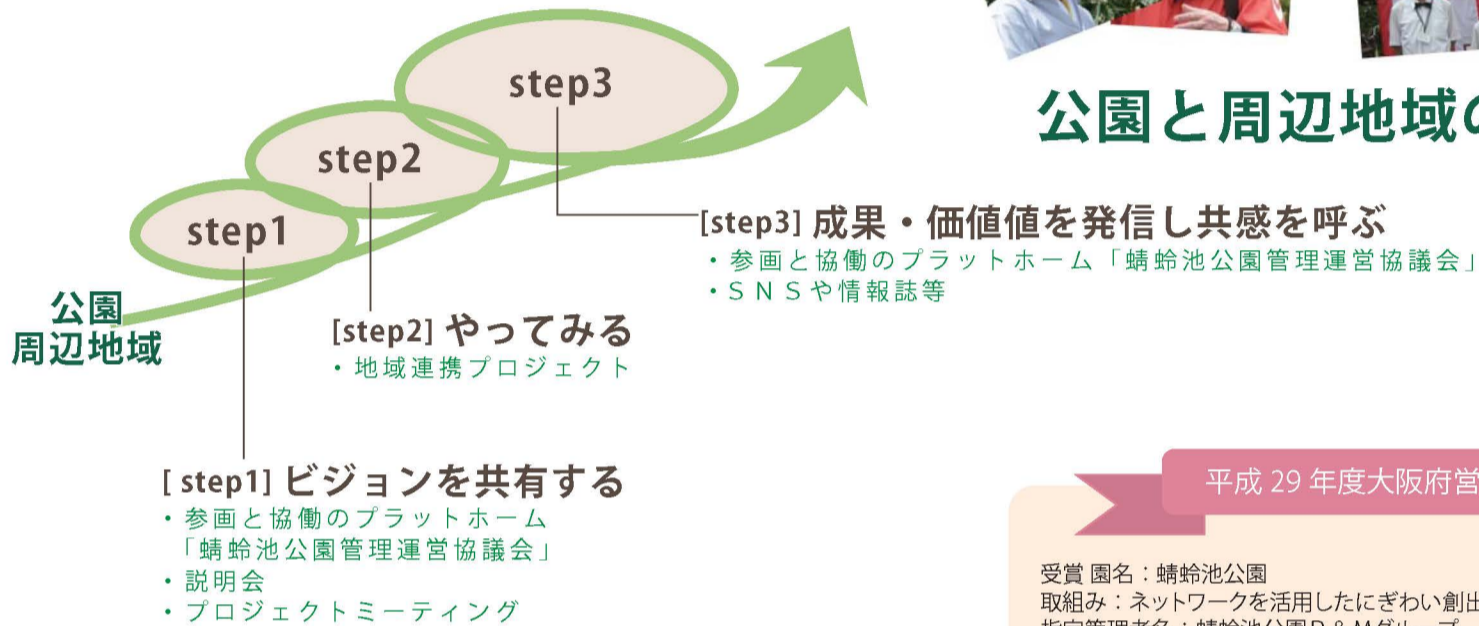
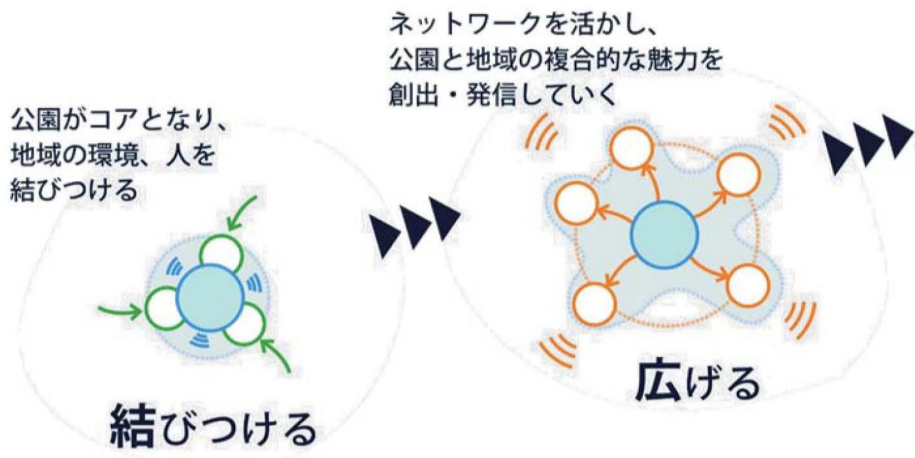
地域の人々と共に模索し育てていっている「岸和田山手」の魅力を、プロジェクトの成果を SNS 等で発信することで、目指すビジョンに共感する人々とのつながりを広げ、公園と地域の活性化の推進力が高まっていった。

# 公園と地域（環境・人）を結びつけるパークマネジメント

地域の人のつながりからは、様々なアイデア、新たな人の紹介が生じ、その分野は、食、農、産業、芸術、福祉、自然、スポーツなど様々な分野に渡る。それらは、プロジェクトを実施する当事者たちの目的や遣り甲斐のためだけでなく、市民・地域のために提供されるサービスとなっている。このような地域連携事業が継続していくことで、公園と地域の価値がより高まっていくと考える。

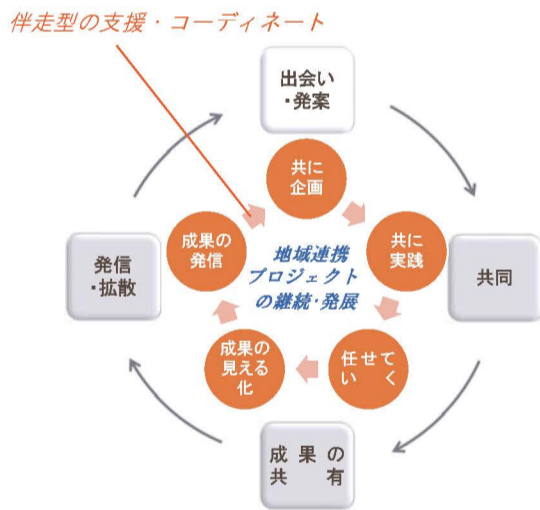


## 公園と周辺地域の一体的な活性化



## 伴走型の支援・コーディネート

個々のプロジェクトが指定管理者に依存したプロジェクトにならず、継続・発展していくよう、相手の状況、活動の成長段階にあわせた支援ができるよう、〔①共に企画し〕、〔②共に実践し〕、〔③お任せできるところはお任せ〕、〔④成果を見える化し〕、〔⑤成果を発信する〕という一連のコーディネートを行った。



### 平成 29 年度大阪府宮公園指定管理業務 特別賞

受賞 園名：蜻蛉池公園  
 取組み：ネットワークを活用したにぎわい創出  
 指定管理者名：蜻蛉池公園 P & M グループ  
 一般財団法人大阪府公園協会 岸和田造園緑化協同組合 株式会社ヘッズ

大阪府宮蜻蛉池公園の指定管理業務において、当社が企画・運営を担当した府民・事業者の参画と協働によるにぎわい創出の取り組みが、今年が最初となる「大阪府宮公園指定管理優良業務表彰」において「特別賞」を受賞しました。これは、平成 22 年度から 8 年間に亘って開催してきた「蜻蛉池公園管理運営協議会」によって形成された府民と公園関係者とのネットワークづくりと、それによって推進されてきた公園利用の活性化が高く評価されたものです。この受賞により、当社が目指してきた「府民による府民のための蜻蛉池公園の活性化」が広く認められることとなりました。

